

四條畷市まちづくり長期計画（教育施設を含む）
策定に向けたまちづくり意見交換会〔第7回〕

- 日 時：平成26年10月15日(水)19:00～
- 場 所：市民総合センター 展示ホール
- 出席者：56名

<質疑応答>

- ・東小の保護者です。8月に入ってからこの内容を知り、5年後の噂話程度で自身には関係ないと思っていたが、平成29年度には廃校という計画であり、南中学校を卒業することができないという、突然当事者となった。まず、今回の意見交換会について発表が遅いと感じます。学校の統廃合問題について、児童数が減少していることは認識しているが、なぜ急ぐのか、その理由がわかりません。これから中学校に進学する児童は途中で転校しなければならない、通学距離も長く、クラブ活動も中途半端となる、小さな学校から大きな学校に吸収合併されるなど、児童に対する廃校する重みというものをもっと認識していただきたい。中学3年は重要であり、なぜ子供たちの意見を聞いてくれないのか？温水プールはいらぬ。このような施策では若者たちが離れていくと考えられる。もっと若者たちが住みたいまちとなるよう望みます。
 - ⇒スケジュール案を示しましたが、目標年次を定めできるだけ速やかに教育環境を整備していきたいと考えております。しかし、子供たちへの配慮は十分に認識しており、対応していきたいと考えています。
 - ⇒中学3年生の転校というのは心の負担も大きいと思われます。他市の事例でもあるように例えば2～3年前から徐々に慣れるような工夫なども含めて検討していきたいと考えています。
 - ⇒少子化に伴い、いくつかの学校が小規模校の状態が続くのは明らかであり、これら問題を放置することはできない。これら問題が解消されるようスケジュールを組んでいきたいと考えています。
 - ⇒学校の統廃合は時代背景から検討していかなければならない問題である。その中で学校の改修費用は大きいものであることから、まず取り組まなければならない課題として短期と設定した。また、学校と同じように老朽化している施設を集約化し、財政負担を軽減するために計画を立てている。
- ・率直に感じたことは、まちづくり計画が乱暴すぎる。少子化問題は全国的な問題であるが、自身は教員として大規模校も小規模校も経験してきたが、なぜ小規模校が悪いのか？他市では1校を廃校するにも大変であるのに、今回四條畷市では4校も無くす計画は無茶苦茶である。府内でも事例はないと思う。全国事例はどうか調べてほしい。市はこど

も基本条例では子どもたちを『未来を支えるかけがえのない宝』と言っているにも係わらず、その教育の場である4校をつぶすことは全国的に事例はないと思われる。子供は宝と言いながら医療費助成制度も他市と比較すると短く、大事業にお金をかけて医療にお金をかけない考えはおかしいと思われます。

⇒まだ公表はしていませんが、平成27年度より大阪府が医療費助成制度の拡充を示しており、四條畷市としても平成27年7月を目途に拡充の方向で検討を行っています。医療費助成制度の拡充が小学6年生までなのか、中学3年生までなのかは今後の検討課題である。

⇒少子化は全国的な問題であり、既に全国でも同様の検討がなされており、国も施策をもって進めていくとのこと。このことから市としては1世代先の近未来の学校の再編を考えるとともに、小規模校のメリットもあればデメリットもあり、教育環境整備計画を立てた。子供は宝であり、教育は重要であることは同感であります。

⇒小規模校ではきめ細かく教育を行えるというメリットはありますが、クラス替えができず、人間関係で苦慮しているという声も一方ではあります。こういった意見も考慮し解消していきたいと考えています。

- ・今回の説明を聞いて感じたことは、市が説明された案を皆に承認してほしいと言っているように感じる。宮城県の岩沼市では住民が話し合いの場を設けて徹底的に議論し、まちづくりの方向性を導き出したという事例もある。そのような姿勢が感じられない。民間とともに取り組むと記載されているが、基本は市民とともにであるべきである。意見交換会は最低でも自治会単位で行うべきである。市民の声をどのように取り入れるのか伺いたい。次に前回の出席者からはハード面の整備とその跡地活用と聞いて来たが、ソフト面の検討を除外してハード整備だけを行うのであればダメ。施設を集約すれば交通手段はどうなるのか？

⇒ハード整備のみを行うといった説明はこれまでの説明会でもありません。先ほど説明したとおり医療費助成制度や子育て支援制度などソフト事業も含めて検討を行ってまいります。

⇒これまでの取組みを振り返ると、市民会議を組織し、保護者や公募市民に参画していただき意見交換を行ってきました。これら意見を踏まえ、関係する団体との意見交換も踏まえ今回の案を作成いたしました。今回の意見交換会でも初回は参加者も少なく、周知不足は否めないとは認識している。今後の市民の声を聞かせていただく場として、例えば畷出前講座などに申し込んでいただくことで肉声での意見交換をおこなっていくことも可能と考えられます。

- ・跡地利用の案に公園整備がなかった。四條畷市では遊び場が少ないので是非公園を計画していただきたい。校区再編により転校した場合の制服等、買い替えについて経済的負

担もあることから市からの支援もあるのか、それともそのまま着続けていいのか。また中学校の選択性も含めて検討してほしい。ハード整備ではたして市に住み続けたいと思うだろうか。学力が上がることでまちの魅力を向上させてはどうか。

⇒跡地利用についてはこれまでの意見交換会でも公園等について意見を頂いております。今後検討していきたいと考えています。

⇒転校に伴う制服や体操服、運動靴などについては移行期間を設けるなどなるべく負担がかからないよう柔軟に検討していきたいと考えています。また兄弟で通う学校が違ってくるとい問題についても柔軟に対応できるように検討したいと考えています。

⇒今回の全国学力学習状況調査の結果をみますと、無回答率が高いという傾向があります。現在、市全体で学力向上3ヶ年計画に基づき取り組んでいるところであり、今後、学校を整備するにあたり、自分で調べ学習ができるような設備を整えとか、学んだことをみんなの前で発表するような場所を作るなど、ハード整備だけでなく、ソフトも含めて取り組むとともに、教員の指導力を高めることにも取り組んでいきたいと考えています。

- ・説明にあった変化と課題に対応したまちづくりについて、具体的な施策があるのか教えてください。次に小規模校について課題を説明させている内容について理解はできるが、一クラスの最低生徒数といった基準があるのか、また大阪府下の事例があれば知りたい。自身が子供のころはクラス数も多かったが、大人になってみればその全員が友達でもない。数が多ければいいとも思わない。今後の児童数の推移をみても激減するわけでもなく、今の状況を維持しようと思うとできるのではないか。学校数を減らして維持修繕費の軽減だけが根幹にあるのではないか。またこれらを実行していくプロセスが分からない。2年前からこれまでどのような議論がなされたかも含めて教えていただきたい。

⇒本市は大阪市内へのアクセスもよく、ベッドタウンであり、大きな工場や商業があるわけではなく、このような現状を考慮したうえで少子高齢化社会に対応していかなければならない。具体的な対策についてはこれからの検討である。

⇒1クラス当りの人数について、20人以下であれば統廃合という基準を設けている市もあるが、本市ではそのような基準は設けていない。

⇒官民連携の先導的な取組みとして、全国で14地区が選ばれた中の一つであり、今回の少子化対策の取組みに対する補助金として1620万円いただいている。四條畷市の取組みを国のモデル事業としてなると考え選定されている。よって、行政だけでなく民間のノウハウを活かした進め方により8回の意見交換会の意見を含めて今年度中に考え方をまとめていきたいと考えている。審議会を今年度には行い、条例の改定も含めて取り組んでいきたいと考えています。

⇒小規模校について、解消させたい理由は複数学級として整えたいとの考えである。単学級であればクラス替えができないことでいじめにあった場合、教育的配慮ができた

いことが上げられます。

⇒四條畷市の一般会計が200億円弱であり、平成9年では累積赤字が13億円までとなったが、平成20年には解消し、現在は5億円の累積黒字となっている。このような苦しい財政状況ではあるが、砂薨屋地区ではイオンモールが立地し、その周辺地域も含めたまちの活性化が図られます。また田原地区では総合公園の計画もあります。ハード整備だけではなく、ソフト事業ではこどもプロジェクトや生きがいプロジェクトなどを市長の任期中に取り組んでいく方針である。このような小さなプロジェクトを積み上げ、取り組んでいく方針です。

⇒近隣市の統廃合の基準等、現在データは保有しておりません。

- ・財源がかなりかかる計画のように思います。市民としては心配である。どのように考えているのか？

⇒2050年を目途に維持管理費用を積み上げた場合、概算で400～500億掛かると考えられます。遊休地の活用のほか、市の財源だけでは無理であることから、公共施設に民間施設を入れて収益を得るなど検討していきたいと考えています。この計画に財源なしで進めることはありません。

- ・育成会の代表の者です。アンケートで意見を集約する考えですので見てほしいと思っています。校区割について、境目に学校ができると、目の前に学校がありながら遠い学校に通わなければならないという課題がある。また伝統ある畷小を廃校にするなど様々な課題があると思いますが、これら校区割は決定事項なのでしょうか？

⇒校区については皆さまの意見を踏まえて決定していきたいと考えています。これまでの意見では、中野新町在住の方からの通学距離の問題や学校の選択制の仕組みなども作っていけるものか検討していきたいと考えております。しかし、小学校は地域ごとに残していきたいとの考えから新たな小学校を作り、魅力ある学校づくりをと考えています。現在の畷小学校は立地的な課題など総合的に考え、計画を立てました。

- ・3年後に南中がなくなり、この計画では中1で南中に入学し、中2で畷中に転校となる。このような年次スケジュールであれば入学から畷中学に行かせたい。

⇒転校等、時期も含めて柔軟に対応していきたいと考えています。

- ・畷中に通う場合、通学路途中で不審者が多いと言われている。校舎を改修する前に通学路等、安全面を優先して改修していただきたい。畷中の女子更衣室の壁も併せて改修していただきたい。このような大きな会場では意見を言いにくい。地区ごとに説明会を開催すると言っていたのになぜこのような会場なのか。

⇒校区再編にとって最も大事にしなければならないことは通学路の対策である。これまでいただいた意見では冬のクラブ活動後の帰宅となると暗く危険を伴うとの意見から、

これがすべてではないがLED化も進めていく方針であります。市民会議では自治会単位で説明とあったが、自治会単位では地区の意見が偏ることも想定されることから、様々な意見を頂きたいとの思いからこのような説明会とさせていただきました。

(以上)